映画美学校

言語表現コース

ことばの学校

第3期　基礎科

募集要綱

2023

後援：書肆侃侃房

ホップ・ステップ・サードイヤー!

映画美学校言語表現コース「ことばの学校」は、設立当初は思ってもみなかったことだが、なんと3期目を迎えることになった。ありがたいことである。何ごとにつけコスパや費用対効果やインセンティヴばかりが求められる昨今、自分で言うのも何だが、こんな不思議な学校にいったいどれだけ人が来てくれるのか、なかば社会実験のような気持ちで始めたものだったが、蓋を開けてみると予想をはるかに超えて好評で、第1期第2期と、基礎科も演習科も盛況をもって終えることが出来た。主任講師としては望外のよろこびである。

「自分のことば」を探し当てるためにこそ、まずは「他者(たち)のことば」の多種多様なありようを知る/学ぶことが重要なのだということ、書くことと読むこと、そして話すことは、ことばを用いた営み/試みという点で、分かち難く結びついているのだということ、ふだんから無意識にいくらでも使うことが出来ている(と思っている)ことばというものは、しかしひとたび意識してみると、日常性の皮膜を喰い破って、思いも寄らなかった謎と神秘を露わにすることがあるのだということ、自分自身が今も日々何度となく体験している「ことば」という「未知」との遭遇を、スクールという仕組みにおいてどうにかして共有可能に出来ないだろうか、、おおよそこんな欲望と野心とともに「ことばの学校」は船出した。その航海はまだまだ続く。ということで三年目である。

「ことばの学校」3期目では、基礎科、演習科ともに、また新しい取り組みを考えてみた。まず、第2期では第1期の反応を踏まえて比較的「創作」に重心を傾けた講師陣の人選を行なったが、第3期では創作的な要素もじゅうぶんに押さえつつ、より広範な「ことば」との出会いを模索すべく、カリキュラムを設計した。あくまで「基礎科」なのだから、もちろん万全ということはあり得ないのだとしても、ことば=言語の多様性、多様であることの重要性を、まるで週ごとにジャンルがどんどん変わっていくスリリングな連続ドラマ(!)のように、受講者に体験してもらうことが肝要なのだと、三年前に「ことばの学校」を夢想した初心に戻って人選に取り組んでみた。第1期、第2期同様、第3期の講師ラインナップにも絶対の自信を持っている。

そして基礎科の先に控える演習科では、思い切って「創作系」と「批評系」の二つのコースを新設することにした。「ことば」には両面(それ以外も)が存在するわけだが、ふとあたりを見回してみると、「創作」に比して「批評」のジャンルを超えた弱体化(と敢えて記す)は否定できない事実だと思われる。かつて長きにわたって「批評の学校」を主宰していた身としては、何かしら賦活のためのチャレンジをすべきだと考えた次第である。「創作系」も「批評系」も、どちらも「書くこと」を実践的に学んでいくわけだが、書くためには読まなくては、書けるためには読めなくてはならないという真理は大前提である。新任を含む各系の魅力的な専任講師陣の指導のもと、書くことと読むことをリズミカルに行き来しつつ階梯を昇っていくようなイメージを私は抱いている。また、両方の系を選ぶことも可能である。

もちろんこれまでと同様、聴講生も募集する。「ことばの学校」は「言語表現」をめぐる現在、最高にして最強の「座学」を提供します。

ぜひ、私たちと一緒に、めくるめく「ことば」の冒険に旅立ちましょう!

映画美学校言語表現コース　ことばの学校　主任講師　佐々木敦



佐々木敦(思考家)

思考家。HEADZ主宰。文学ムック「ことばと」編集長。30年以上にわたって芸術文化の複数のジャンルで、執筆、批評、企画、編集、オーガナイズ、プロデュースなどを行ってきた。著書多数。

言語表現コース　ことばの学校　とは

- 言語表現のさまざまなジャンルや形式に触れ、「自分が自分だからこそ書ける言葉」を発見し、獲得することを目指します。
- 基礎科と演習科に分けて募集。基礎科は全 16 名の講師による日替わり講義（16 回）と主任講師の佐々木敦による講義（4 回）の全 20 回の講義となります。
- 演習科は「創作クラス」「批評クラス」の二クラス制を導入。自身の希望に応じてお選びいただけます。両クラスとも 4 名の専任講師から課題講評を受けることができ、より実践的な講義となります。スペシャルゲストによる特別講義（「創作クラス」「批評クラス」共通）も予定しております。
- 基礎科はオンラインで実施、演習科は対面とオンラインの併用で実施。遠方でも受講が可能です。
- 座学のほか、基礎科は主任講師、演習科は主任講師と専任講師による課題講評を受けることができます（正規生のみ）。
- より気軽に参加ができる聴講制度を導入。自分の好きなタイミングで講義を閲覧することが可能です（基礎科のみ）。

正規受講生：講義をリアルタイムで参加・講師陣への質疑応答・主任講師による課題講評・講義アーカイブの視聴可能・定員あり
聴　講　生：安価で講義のアーカイブを閲覧・開講後でも申し込みが可能・定員なし

言語表現コース ことばの学校 基礎科　講義スケジュール

年月日	曜日	時間	講師
2023 年 7 月 27 日	木	19:30-	佐々木敦
8 月 3 日	木	19:30-	佐々木敦
8 月 17 日	木	19:30-	水上文＋佐々木敦
8 月 24 日	木	19:30-	宮内悠介＋佐々木敦
8 月 31 日	木	19:30-	阿部公彦＋佐々木敦
9 月 7 日	木	19:30-	本谷有希子＋佐々木敦
9 月 14 日	木	19:30-	三木那由他＋佐々木敦
9 月 21 日	木	19:30-	濱口竜介＋佐々木敦
9 月 28 日	木	19:30-	大森望＋佐々木敦
10 月 5 日	木	19:30-	井戸川射子＋佐々木敦
10 月 12 日	木	19:30-	佐々木敦
10 月 19 日	木	19:30-	山下澄人＋佐々木敦
10 月 26 日	木	19:30-	鴻巣友季子＋佐々木敦
11 月 2 日	木	19:30-	東直子＋佐々木敦
11 月 9 日	木	19:30-	渡辺祐真（スケザネ）＋佐々木敦
11 月 16 日	木	19:30-	千葉雅也＋佐々木敦
11 月 30 日	木	19:30-	柴崎友香＋佐々木敦
12 月 7 日	木	19:30-	奥泉光＋佐々木敦
12 月 14 日	木	19:30-	佐藤文香＋佐々木敦
12 月 21 日	木	19:30-	佐々木敦

ことばの学校 基礎科　講師プロフィール



阿部公彦（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部　教授）

1966 年生まれ。東京大学文学部卒。同修士課程修了の後、ケンブリッジ大学大学院博士課程修了。博士（文学）。東京大学大学院教授。英米や日本の詩や小説を中心に、「メランコリー」「退屈」「即興」「事務能力」「胃弱」などの視点から研究を進めている。著書に『英詩のわかり方』『小説的思考のススメ』『文学を〈凝視する〉』『幼さという戦略』など。



井戸川射子（作家）

1987 年生まれ。2018 年、第一詩集『する、されるユートピア』を私家版にて発行。2019 年、同詩集にて第 24 回中原中也賞受賞。2021 年第一小説集『ここはとても速い川』で第 43 回野間文芸新人賞受賞。2023 年『この世の喜びよ』で第 168 回芥川龍之介賞受賞。



大森望（翻訳家・書評家）

1961 年、高知市生まれ。責任編集の『NOVA』全 10 巻、共編の『年刊日本 SF 傑作選』全 12 巻で、第 34 回・第 40 回日本 SF 大賞特別賞。著書に『21 世紀 SF1000』『新編 SF 翻訳講座』『50 代からのアイドル入門』他、訳書に劉慈欣『三体』（共訳）、テッド・チャン『息吹』他。「ゲンロン 大森望 SF創作講座」主任講師。



© 新潮社

奥泉光（作家）

1956（昭和 31）年山形県生まれ。国際基督教大学教養学部卒業。同大学院修士課程修了。1993（平成 5）年『ノヴァーリスの引用』で野間文芸新人賞、瞠目反文学賞、1994 年『石の来歴』で芥川賞、2009 年『神器―軍艦「橿原」殺人事件』で野間文芸賞、2014 年『東京自叙伝』で谷崎潤一郎賞、2018 年『雪の階』で柴田錬三郎賞、毎日出版文化賞を受賞。主な作品に、『バナールな現象』『「吾輩は猫である」殺人事件』『シューマンの指』『死神の棋譜』、「桑潟幸一准教授のスタイリッシュな生活」シリーズなどがある。



鴻巣友季子（文芸評論家・翻訳家）

英語圏文学の研究、翻訳と国内外の文芸評論を手がけ、「謎とき『風と共に去りぬ』」、「文学は予言する」が画期的論考として評価を得る。他の主著に、「翻訳教室　はじめの一歩」、「翻訳、一期一会」など。主訳書に、E・ブロンテ「嵐が丘」、M・ミッチェル「風と共に去りぬ」、M・アトウッド「誓願」、J・M・クッツェー「恥辱」、A・ゴーマン「わたしたちの登る丘」など。せたがや文化財団理事、毎日新聞書評委員。



佐藤文香（俳句作家）

1985 年兵庫県生まれ。池田澄子に師事。句集に『海藻標本』、『君に目があり見開かれ』、『菊は雪』。編著に『俳句を遊べ！』、『天の川銀河発電所 Born after 1968 現代俳句ガイドブック』など。俳句を含めた日本語詩全体の可能性や、各ジャンルの作家同士の交流の場について考えている。



柴崎友香（小説家）

小説家。著書に『百年と一日』『公園へ行かないか？火曜日に』『わたしがいなかった街で』『千の扉』『寝ても覚めても』『きょうのできごと』、岸政彦との共著エッセイ『大阪』など、他多数。



© 新潮社

千葉雅也（哲学者・作家・立命館大学大学院教授）

1978 年栃木県生まれ。東京大学教養学部卒業。パリ第 10 大学および高等師範学校を経て、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース博士課程修了。博士（学術）。著作に『動きすぎてはいけない』、『勉強の哲学』、『デッドライン』（野間文芸新人賞）、「マジックミラー」（川端康成文学賞、『オーバーヒート』に収録）、『現代思想入門』（新書大賞 2023）など。



濱口竜介（映画監督）

1978 年、神奈川県生まれ。2015 年、317 分の監督作『ハッピーアワー』がロカルノ国際映画祭をはじめ多くの国際映画祭で主要賞を受賞、『偶然と想像』（21）でベルリン国際映画祭銀熊賞（審査員グランプリ）、『ドライブ・マイ・カー』（21）で第 74 回カンヌ国際映画祭脚本賞など 4 冠、第 94 回アカデミー賞国際長編映画賞を受賞。地域やジャンルをまたいだ精力的な活動を続けている。



東直子（歌人・作家）

1996 年、第 7 回歌壇賞、2016 年、小説『いとの森の家』で第 31 回坪田譲治文学賞受賞。歌集に『春原さんのリコーダー』『青卵』、小説に『とりつくしま』『階段にパレット』、入門書に『短歌の詰め合わせ』『短歌の時間』、エッセー集に『愛のうた』『一緒に生きる』など。最新刊は書評＆エッセイ集『レモン石鹸泡立てる』。



三木那由他（大阪大学大学院人文学研究科講師）

哲学者。専門は言語とコミュニケーションの哲学。著作に『話し手の意味の心理性と公共性』（勁草書房、2019 年）、『グライス　理性の哲学』（勁草書房、2022 年）、『言葉の展望台』（講談社、2022 年）、『会話を哲学する』（光文社、2022 年）がある。『群像』にて「言葉の展望台」を連載中。



水上文（文筆家・批評家）

1992 年生まれ。文筆家。文芸批評・書評を書くほか、映画やドラマ、アニメのレビュー、オタク文化やジェンダー / セクシュアリティに関連したエッセイ等も執筆。2022 年『文學界』で新人小説月評を担当。2022 年 1 月より『文藝』で文芸季評を連載。寄稿媒体は『文藝』『文學界』『群像』『週刊文春』『ユリイカ』など。



宮内悠介（小説家）

1979 年、東京都生まれ、早稲田大学第一文学部卒。2010 年、「盤上の夜」で第 1 回創元SF短編賞選考委員特別賞（山田正紀賞）を受賞してデビュー。以後、SF、ミステリ、純文学を横断的に活動する。近著に『かくして彼女は宴で語る――明治耽美派推理帖』など。



本谷有希子（劇作家・小説家）

2000 年「劇団、本谷有希子」を旗揚げし、作・演出を手掛ける。『遭難、』で第 10 回鶴屋南北戯曲賞)、『幸せ最高ありがとうマジで!』で第 53 回岸田國士戯曲賞、『異類婚姻譚』（講談社）で第 154 回芥川龍之介賞を受賞。著作が海外でもさかんに翻訳され、様々な言語で出版されている。近年は自身の小説を舞台化する試みにも取り組む。



山下澄人（作家・劇作家・俳優）

1996 年より劇団 FICTION を主宰。2012 年『緑のさる』で第 34 回野間文藝新人賞、2017 年『しんせかい』で第 156 回芥川賞を受賞。そのほかの著書に『ギッちょん』『鳥の会議』『壁抜けの谷』『ほしのこ』『小鳥、来る』『月の客』『君たちはしかし再び来い』『おれに聞くの？』などがある。

撮影：神ノ川智早



渡辺祐真（スケザネ）（書評家・ゲーム作家）

1992 年生まれ。東京都出身。東京のゲーム会社でシナリオライターとして勤務する傍ら、2021 年から文筆家、書評家、書評系 YouTuber として活動。テレビやラジオなどの各種メディア出演、大学や企業での講演会なども手掛ける。著書に『物語のカギ』（笠間書院）。毎日新聞文芸時評担当。TBS ラジオ「こねくと」レギュラー。

言語表現コース ことばの学校 第３期基礎科　募集要項

●受講期間：2023年7月27日（木）～2023年12月21日（木）

●受講資格：18才以上（学歴、経験の有無は問いません）。
講義参加・課題提出や学校からのお知らせを受け取る際にインターネット環境が必要となります

●募集人員：【正規受講生】90名　【聴講生】定員なし
※申し込み後の移動はできません。※聴講生はリアルタイム参加は出来ません

●講義場所：オンライン
＜オンライン講義での受講条件＞
・WEB上のオンライン会議サービスを使用するため、Wi-Fi環境を推奨します。
・DropboxやGoogleDriveなどのクラウドを使用することがあります。

●講義日程：毎週木曜 19:30～22:30
※講義により延長の可能性があり。
※講師のご都合により講義日程や講師に変更の可能性があります。ご了承の上お申込み下さい。

●講義回数・受講料：全20回／【正規受講生】77,000円（税込）　【聴講生】44,000円（税込）
※一括納入が原則ですが、ご希望の方には分割払いでのお支払いもご案内をいたします。

●入学登録料：10,000円（税込）※映画美学校通年講座をはじめて受講される方のみ

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして
【正規受講生】総額77,000円（映画美学校を初めて受講される方は87,000円）
39,000円を前払い（映画美学校を初めて受講される方は49,000円）　残額38,000円が分割払いになります。

お支払回数	金 利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	77,000	39,000	38,000	1,596	39,596	9,899

【聴講生】総額44,000円（映画美学校を初めて受講される方は54,000円）
22,000円を前払い（映画美学校を初めて受講される方は32,000円）　残額22,000円が分割払いになります。

お支払回数	金 利	合計金額	前払金	残 額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
4	4.20%	44,000	22,000	22,000	924	22,924	5,731

（単位：円／税込）

●申込期間：正規受講生：6月24日（土）昼12:00から7月21日（金）20:00まで
聴講生：6月24日（土）昼12:00から11月30日（木）まで
※正規受講生は締切日以前に定員に達した場合、申込受付を締め切らせていただきます。

申し込みはこちら

●申込方法：オンラインによる申込。映画美学校ホームページよりお申し込みください。

●受講手続：申込書を映画美学校で受理後、メールにてご入金手続きの案内をさせていただきます。案内に従って、指定の期日までにお振込下さい。ご入金が確認された時点で申し込み受付完了となります。
※一旦納入された受講料は原則として返金できません。
※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます（詳しくは映画美学校約款をご参照ください）。

映画美学校約款

受講上のご注意

◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。

◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。

◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。

◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。

◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。

◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。

◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。

◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

受講取消の扱い

◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90％

29日前～14日前まで：全額の75％

13日前～7日前まで：全額の50％

6日前～1日前：全額の25％

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

安全面について

◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。

◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

著作権について

◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044
東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
（渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折）

TEL 03-5459-1850　FAX 03-3464-5507
http://www.eigabigakkou.com
受付時間（月～土）12:00～20:00

